さんむのふるさと散歩 NO.30

山武地区の道標

今回は、長年風雨に耐えて往来する人々を見守り続けてきた道標がテーマです。

地方での交通手段が主に徒歩だったつい60年位前（太平洋戦争直後）までは、道路の辺に立つ道標は、今よりも馴染み深いものでした。

では当時の人たちが日頃目にしていた道標にはどのようなものがあるのでしょうか。山武地区にある道標を例にとり紹介します。

下段①の写真は大木・松林寺北三叉路に立つ道標です。

（写真の右側面）

北　当区ヲ経テ睦岡村沖渡
　　實門ニ至ル

（写真左側面）

御大典記念　昭和三年十一月
　　十日

日向村青年団支部建之

（写真に写っていない裏面）

東　大木山ヲ経テ八街停車ニ
　　至ル
南　木原ヲ経テ日向停車場ニ
　　至ル

①大木地区にある道標

とあります。この道標が建立された昭和三年十一月は昭和天皇即位を記念する奉祝行事が盛大に日本全国で開催されました。

この道標は、そんな当時の雰囲気の中で、記念碑として建立されたものだったのでしょう。

市内各所に同じようなものがみられます。

下段②の写真は、下布田公民館の西側台地を通る、旧道沿いの墓地にある道標です。

②下布田地区にある道標

この道標はちょっと変った経歴をもっています。刻まれた銘文をみると、

東　かたかい（片貝）
　　とふかね（東金）
　　酒々井産
南　ふだ（布田）俗名
　　平七
　　さくら（佐倉）大正七年
　　一月
西　岩とみ（岩富）下布田青
　　年会修繕
北　妙法蓮登信士
　　埴にや（埴谷）十一月
　　二四日

とあります。この道標は最初、天保四年、酒々井生まれの平七という人を供養するために建立されたのですが、大正七年に下布田青年会が改修したようです。

今回紹介した道標は両方とも、地区の青年団（会）が建立に関わっていました。当時の青年たちはこのような活動を通じて地域社会に貢献していたようです。

今回紹介した道標の他、市内には、道祖神や馬頭観音などのさまざまな石造物が残されています。資料館では、各地区を訪ねて調査を行なっています。

歴史民俗資料館から公開中の展示案内

館内企画展

松尾城展「I発掘成果」

場所　歴史民俗資料館

期日　7月5日(日)まで

館外企画展

「山武地区の道標Ⅱ」

場所　さんぶの森展示ギャラリー

期日　7月26日(日)まで

「蓮沼地区の庚申塔Ⅱ」

場所　蓮沼スポーツプラザ

期日　7月26日(日)まで

問　歴史民俗資料館　☎(82)2842

☎／市外局番の記載のないものは『0475』です